

道北地域における文化資源調査を通してみる若者の意識変化

著者	江連 崇
雑誌名	地域と住民 : コミュニティケア教育研究センター年報
号	3
ページ	137-137
発行年	2019-05-31
出版者	名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター
ISSN	0288-4917
書誌レコードID	AN0001106X
URL	http://id.nii.ac.jp/1088/00001813/

課題研究要旨

道北地域における文化資源調査を通してみる若者の意識変化

江連 崇*

名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科

はじめに

本研究では道北地域（一部道東地域）のフィールドワーク（2018年9月11日～14日）を通して若者（本研究では主に大学生を指す）の地域文化、歴史に対する意識変化を検討するものである。具体的には本学（名寄市立大学）学生と首都圏（千葉県私大1校7名、神奈川県私大1校2名）の大学生が合同で数日間の道北地域におけるフィールドワーク、ディスカッションを行った。その後、参加学生たちにインタビューをおこなっており、またそこから、フィールドワークにより地域の文化や歴史、地域性を学ぶことの教育的効果について分析を現在おこなっている。以下は当日のフィールドワーク合宿の様子である。

1. フィールドワーク概要

9月11日	オリエンテーション
9月12日	羽幌町郷土資料館見学
	羽幌炭鉱跡地フィールドワーク
	幌加内町朱鞠内湖・笹の墓標展示館見学 学生による研究報告会
9月13日	音威子府村酪農家からの講義・インタビュー
	牧場見学
9月14日	移動日
9月15日	阿寒湖ザリガニ漁の見学・漁業協同組合関係者へのインタビュー



写真1 羽幌炭鉱跡地の見学



写真2 音威子府村の牧場見学

2. 今後の予定

2019年4月現在、当日参加した学生たちにインタビューを行っている。そこからは「イメージと違った北海道をみる事ができた」「まったく違う環境で暮らしている同年代との交流は刺激になった」などの声を聞くことができている。今後インタビュー、分析を継続していき、フィールドワークを用いた地域学習や平和学習の可能性について検討していきたい。

*責任著者 E-mail:tezure@nayoro.ac.jp